

入生田菌類誌資料 No.002

マダケすす病菌

Capnodium elongatum Berk. & Desm. form. *phyllostachydis* Sacc.

宿主：マダケ *Phyllostachis bambusoides* Siebold & Zucc.

子囊菌門 Ascomycota チャワソウタケ亜門 Pezizomycotina クロイボタケ綱 Dothideomycetes

クロイボタケ亜綱 Dothideomycetidae カプノジウム目 Capnodiales カプノジウム科 Capnodiaceae

供試標本

KPM-NC0016982, 2009年8月17日, 入生田立正校成会付近(竹林), 佐々木シゲ子・福井道子・赤堀千里採集.

肉眼的特徴

マダケ赤団子病菌 *Shiraia bambusicola* の赤団子状の塊が淡褐色に変わる頃に、その病塊の上にすす状の病斑を生じる。腐生性のすす病である。菌叢上に分生子殻を形成する。

顕微鏡的特徴

分生子殻は、高さ 385-490 μm、幅は 15.4-30.8 μm、黒褐色を呈する。分生子殻の固有の部分は 77-96 × 35-41 μm、長楕円形で柄の部分と嘴の部分に向かって細まり、柄の長さは非常に長く 290-330 μm、上部の嘴の部分も長い。嘴の先端は細裂して分生子が噴出する。分生子は、2.4-4 × 1.3-2.4 μm、平滑で、無色である。

生態的特徴

マダケ赤団子病菌については pp.26-27 を参照。

すす病菌の上にさらに淡褐色や褐色のカビが発生していることが多い。

文献

池上八郎・勝本 謙・原田幸雄・百町満朗, 1996. 新編植物病原菌類解説. p.236. 養賢堂, 東京.

岸 國平編, 1998. 日本植物病害大事典. p.1082. 全国農村教育協会, 東京.

小林享夫・勝本 謙・我孫子和雄・阿部恭久・柿島 眞編, 1992. 植物病原菌類図説. p.210. 全国農村教育協会, 東京.

担当：佐々木シゲ子
監修：小林享夫



図 1. マダケ赤団子病菌上のすす状の病斑と分生子殻.



図 2. 分生子殻. bar: 100 μm.

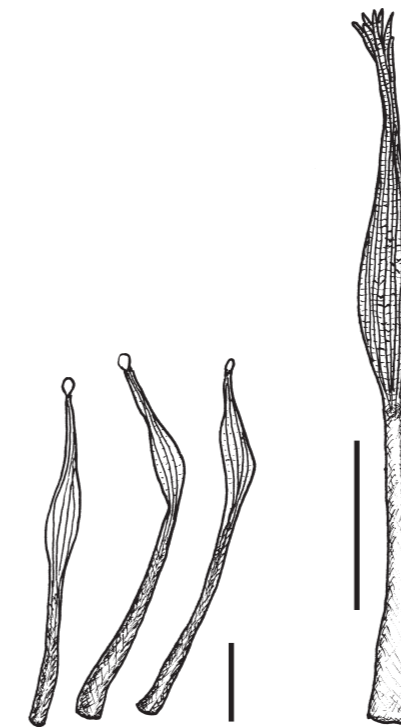


図 3. 分生子殻(長い柄と嘴がある) bar: 100 μm.

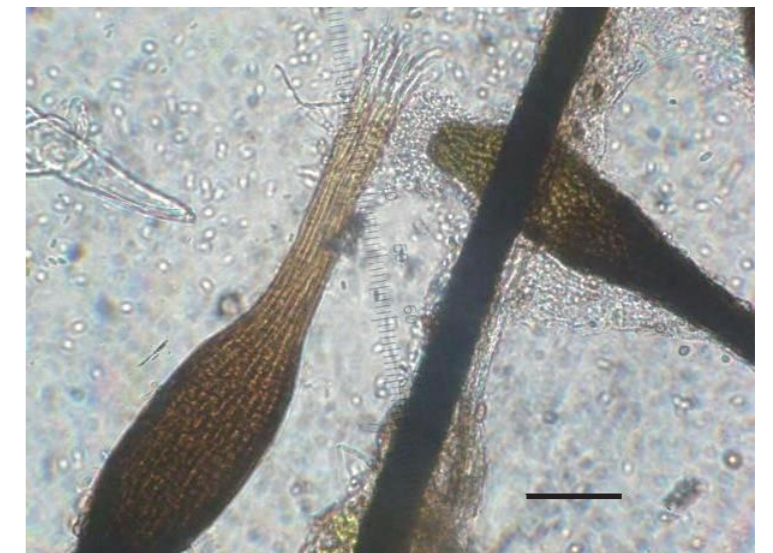


図 4. 分生子殻(拡大) bar: 25 μm.



図 5. 分生子殻の表面 bar: 10 μm.

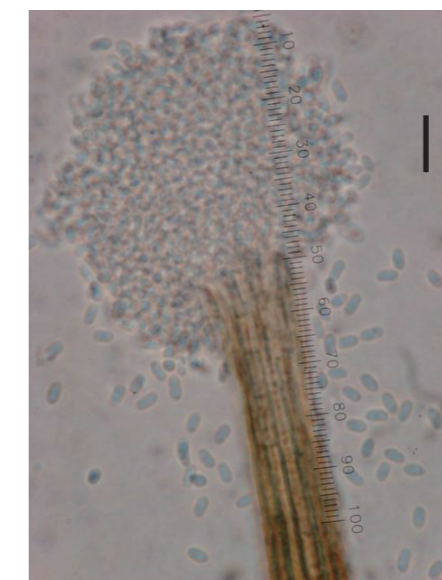


図 6. 分生子殻の先端(先端が細裂し分生子が溢れでている) bar: 10 μm.

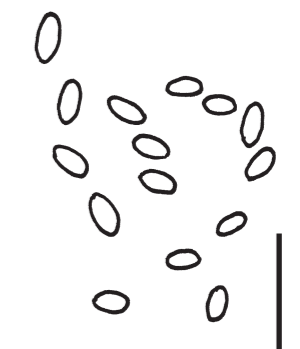


図 7. 分生子. bar: 10 μm.